

平成27年8月10日～8月16日までの全国の暑さ指数（WBGT）の観測状況及び熱中症による救急搬送者数と暑さ指数との関係について  
（お知らせ）（平成27年度第14報）

1. 目的

環境省では、暑さ指数(WBGT：湿球黒球温度)の予測値・実況値について情報提供をしております。今般、全国の熱中症患者数が急増していることから、暑さ指数の情報提供に加え、暑さ指数の推定精度の高い約150地点について、過去1週間程度の暑さ指数の観測状況、暑さ指数と熱中症による救急搬送者数との関係について、定期的に情報提供を行っております。本情報等を活用し、広く熱中症の予防にご協力いただきますようお願いいたします。

2. 先週（8月10日～16日）の全国の暑さ指数の観測状況について

暑さ指数31℃以上（危険）の時間数（168時間中）

1. 石垣島（沖縄県）	36時間
2. 与那国島（沖縄県）	35時間
3. 宮古島（沖縄県）	20時間
4. 久米島（沖縄県）	19時間
5. 南大東島（沖縄県）	14時間

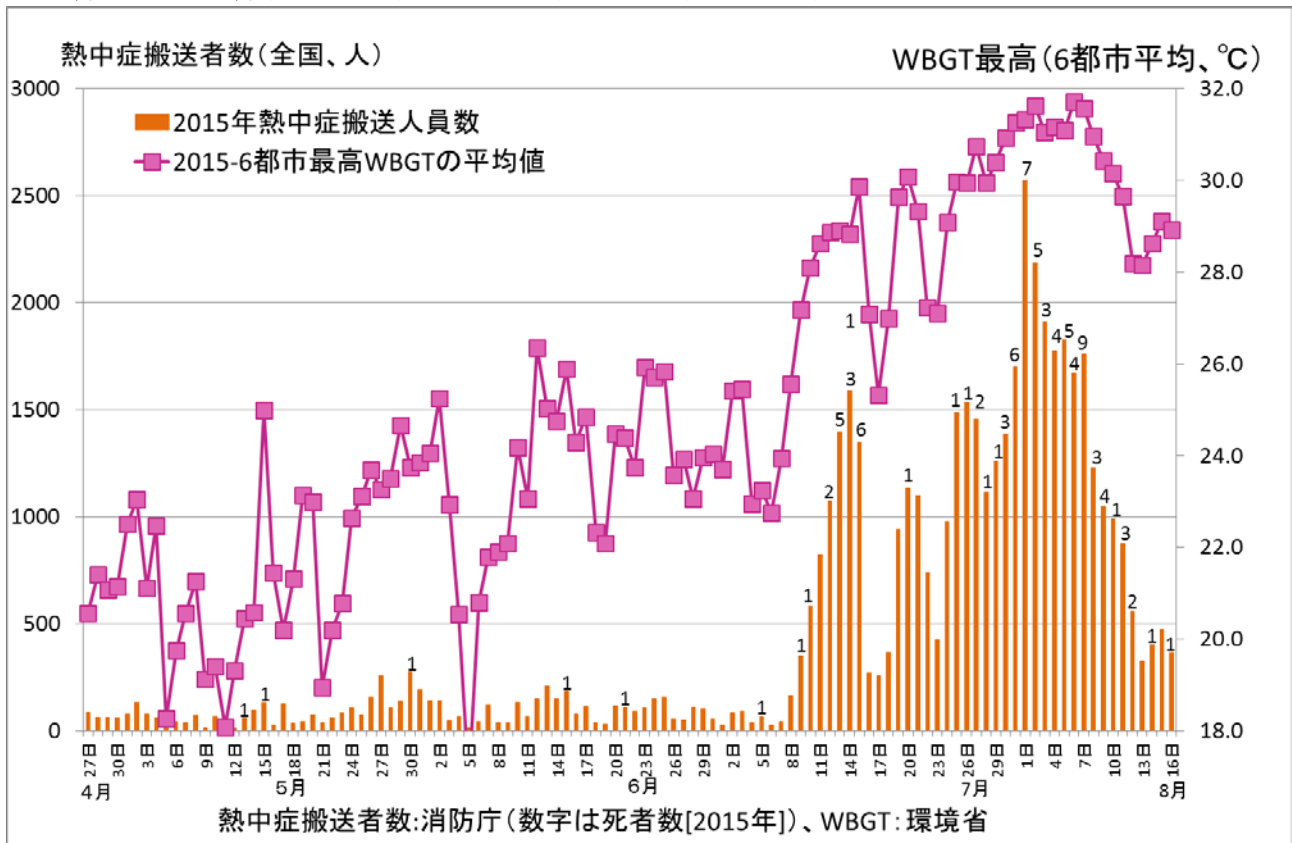
<参考>全国9都市の観測地点

札幌（北海道）	0時間
仙台（宮城県）	0時間
新潟（新潟県）	0時間
東京（東京都）	2時間
名古屋（愛知県）	0時間
大阪（大阪府）	1時間
広島（広島県）	0時間
福岡（福岡県）	2時間
鹿児島（鹿児島県）	2時間

- （注1）暑さ指数は、これまでの調査結果による推定手法を用いて、気象庁の観測資料から推定した値です。  
（注2）暑さ指数31℃以上の時間数は、今回の調査では、沖縄県で上位の地点を占めていますが、少ない時間であっても広い範囲で観測されています。  
なお、暑さ指数31℃以上とは、（公財）日本体育協会の指針において、運動は原則中止レベルです。

### 3. 6都市の暑さ指数と熱中症による救急搬送者数(全国)との関係

6都市：東京都、大阪市、名古屋市、新潟市、広島市、福岡市



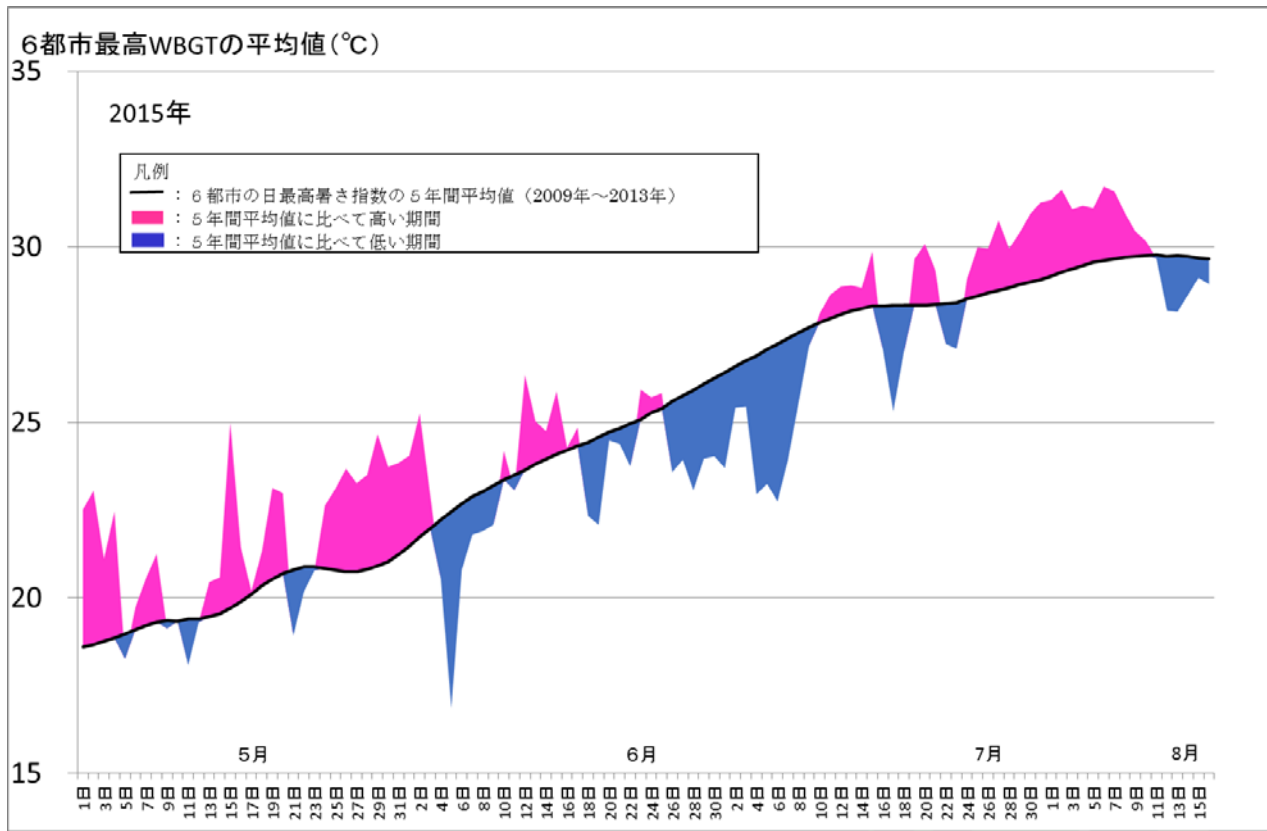
- 6都市平均の日最高暑さ指数(WBGT)は、8月10日～16日までの期間中は、週半ばから30°Cを下回るようになりました。消防庁発表の速報によると、熱中症による救急搬送者数も1,000名を下回り、特に週後半は500名以下で推移し、1週間の合計では3,989名と先週の1/3程度に減少しました。死者は合計8名で先週の1/4程度となりました。
- 全国的に高温傾向は緩和されましたが、期間内に全国の153地点中1/3の51地点では日最高暑さ指数(WBGT)が熱中症の危険度の「危険」を示す31°Cを超えました。さらに、北海道を含めて、全国的にすべての都道府県で「厳重警戒」を示す同28°Cを超えました。このように、広い範囲で引き続き熱中症に厳重な警戒が必要な状態になっています。
- 気象庁発表(8月19日11時時点)の週間天気予報では、「最高気温・最低気温とも、北日本と東日本は平年並か平年より低い日が多いでしょう。西日本は、期間の前半は平年並か平年より低いです。後半は平年並か平年より高いでしょう。沖縄・奄美は、平年並の日が多いでしょう。」とされており、地域によってはこの期間中に、最高気温が35°Cを上回ると予想している日も多くあります。
- 全国的な高温は少し緩和されましたが、今後も晴天の日にはかなりの高温が見込まれます。このため、熱中症に厳重な警戒が必要です。不要不急の外出、作業を控えること、室内では無理をせずエアコンを使うこと、こまめに水分補給や休息をとることなど、体調管理に十分に注意してください。特に高齢者の方は、室温の管理や水分の補給などを行い、熱中症の発症に十分お気をつけください。ご家族など周囲の方の気遣いが熱中症発症の予防につながります。

(注) 6都市における暑さ指数は、環境省の観測と気象庁の観測資料から求めた観測値です。

6都市：東京、新潟、名古屋、大阪、広島、福岡

#### 4. 2015年の6都市の暑さ指数と過去5年間平均（2009～2013年）との比較

6都市：東京都、大阪市、名古屋市、新潟市、広島市、福岡市



今年の6都市平均の日最高暑さ指数（WBGT）は7月下旬以降高い値が続いていましたが、8月11日以降は5年平均値を下回っています。しかし、この時期は一年でもっとも気温の高い時期で、熱中症への警戒が必要なものに変わりはありません。

7月下旬以降の本格的な高温の状況で、熱中症搬送者数が500名程度となっています。日中だけでなく、夜間も熱中症を発症しやすい状況となっていますので、十分な暑さ対策を心がけてください。

（注）この項（4項）は、平均を大きく上回る高温が記録されたときに追加してお知らせします。

